授業計画（シラバス）

科目名	キャリアプランⅠ		指導担当者名	鴻巣あすか
実務経験			実務経験：	
開講時期	通年	対象学科学年	ライフデザイン科1年制	
授業方法	講義：◎	演習：○	実習：	実技：
時間数	64時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	キャリア（自分の生き方や働き方）について考え、計画し実行する			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、 100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	課題プリント配布、その他各自で資料準備			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	自己紹介	クラスメイトと親睦を深める
	2	クラス内親睦	開成山公園へのお花見
	3	目標設定	半年間の目標を立て発表する
	4	teamsの基礎知識	ログイン、チャットの利用方法
	5	teamsの活用	オンライン授業でのグループワーク
	6	実践行動学	マジックドア1
	7	実践行動学	マジックドア2
	8	実践行動学	マジックドア3
	9	実践行動学	マジックドア4
	10	実践行動学	マジックドア5
	11	ビブリオバトル	おすすめの本の紹介
	12	ビブリオバトル	おすすめの本の紹介
	13	他己紹介	2人組でインタビュー
	14	他己紹介	プレゼン資料の作成
	15		発表
	16	前期の振り返り	

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	キャリアプラン Ⅰ		指導担当者名	鴻巣あすか
実務経験			実務経験：	
開講時期	通年	対象学科学年	ライフデザイン科1年制	
授業方法	講義：◎	演習：〇	実習：	実技：
時間数	64時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	社会人に必要な基礎知識とビジネスマナーを習得し実践できる			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、 100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	課題プリント配布、その他各自で資料準備			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	目標設定	半年間の目標を立て発表する
	18	コミュニケーション	出会い・第一印象・自分の良いところ探し
	19		コミュニケーションの基本を知る・グループでコミュニケーションをとろう
	20	コミュニケーションの基本を身につけよう	コミュニケーションと話し上手・挨拶
	21		正しい言葉遣いと敬語
	22	話すときの心構えを理解しよう	聞き手を意識した心構え、話題の広げ方
	23	効果的な話し方を身につけよう	効果的に話すとは　話の構成
	24	効果的な表現力を身につけよう	目線・アイコンタクト
	25	効果的な表現力を身につけよう	表現力を高めるジェスチャー
	26	話すときの心構えを理解する	聞き手を意識した心構え・話題の広げ方
	27	効果的な話し方を身につける	効果的な話し方
	28	面接について	面接のポイントを理解する
	29	自己分析	自己理解
	30	自己PRを考える	自己PRできるものを考える
	31	自己PR作成	自己PR作成
	32	自己PR作成	自己PR作成

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	自己探求Ⅰ		指導担当者名	鴻巣あすか
実務経験			実務経験：	
開講時期	前期	対象学科学年	ライフデザイン科1年制	
授業方法	講義：○	演習：	実習：○	実技：
時間数	64時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	自らの興味関心を探求し、就職・進学意欲を高める 自らの進路決定に向けて主体的に見学に参加することが出来る			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、 100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	課題プリント配布、その他各自で資料準備			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	自己分析	オリエンテーション
	2	自己探求	JO-BI内の他学科調べ
	3	自己探求	JO-BI内の他学科調べ
	4	自己探求	JO-BI内の他学科調べ
	5	自己探求	JO-BI内の他学科調べ
	6	自己探求	JO-BI内の他学科調べ
	7	自己分析	JO-BI内の他学科への見学・参加実習
	8	自己探求	JO-BI内の他学科への見学・参加実習
	9	自己探求	JO-BI内の他学科への見学・参加実習
	10	自己探求	JO-BI内の他学科への見学・参加実習
	11	自己探求	JO-BI内の他学科への見学・参加実習
	12	自己探求	JO-BI内の他学科への見学・参加実習
	13	自己探求	JO-BI内の他学科への見学・参加実習
	14	自己探求	JO-BI内の他学科への見学・参加実習
	15	自己探求	JO-BI内の他学科への見学・参加実習
	16	自己探求	JO-BI内の他学科への見学・参加実習

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	自己探求Ⅱ		指導担当者名	鴻巣あすか
実務経験			実務経験：	
開講時期	後期	対象学科学年	ライフデザイン科1年制	
授業方法	講義：○	演習：	実習：○	実技：
時間数	64時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	自らの進路決定に向けて主体的に見学に参加することが出来る 自らの進路を決定し、次へのステップアップの準備をおこなうことができる			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、 100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	課題プリント配布、その他各自で資料準備			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	自己探求	半年間の授業見学の計画・相談
	18	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	19	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	20	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	21	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	22	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	23	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	24	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	25	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	26	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	27	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	28	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	29	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	30	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	31	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習
	32	自己探求	FSGカレッジリーグの他学科への見学・参加実習

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	一般教養演習		指導担当者名	鴻巣あすか
実務経験			実務経験：	
開講時期	通年	対象学科学年	ライフデザイン科1年制	
授業方法	講義：◎	演習：〇	実習：	実技：
時間数	64時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	ペンやえんぴつで文字を書く書写能力や知識を高め丁寧な文字で文書が作成できる 11月実施の硬筆書写検定3級への合格を目指す 社会人になるための基礎知識を身につける			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、 100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	硬筆書写検定3級テキスト及び書き込み式ドリル			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	自己紹介・授業の進め方
	2	硬筆書写検定の基本と問題演習	速書①
	3	硬筆書写検定の基本と問題演習	速書②
	4	硬筆書写検定の基本と問題演習	速書③
	5	硬筆書写検定の基本と問題演習	漢字の楷書・行書①
	6	硬筆書写検定の基本と問題演習	漢字の楷書・行書②
	7	硬筆書写検定の基本と問題演習	漢字の楷書・行書③
	8	硬筆書写検定の基本と問題演習	縦書きの文章①
	9	硬筆書写検定の基本と問題演習	縦書きの文章②
	10	硬筆書写検定の基本と問題演習	縦書きの文章③
	11	硬筆書写検定の基本と問題演習	横書きの文章①
	12	硬筆書写検定の基本と問題演習	横書きの文章②
	13	硬筆書写検定の基本と問題演習	横書きの文章③
	14	硬筆書写検定の基本と問題演習	はがきの表①
	15	硬筆書写検定の基本と問題演習	はがきの表②
	16	硬筆書写検定の基本と問題演習	はがきの表③

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	一般教養演習		指導担当者名	鴻巣あすか
実務経験			実務経験：	
開講時期	通年	対象学科学年	ライフデザイン科１年制	
授業方法	講義：◎	演習：〇	実習：	実技：
時間数	64時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	ペンやえんぴつで文字を書く書写能力や知識を高め丁寧な文字で文書が作成できる 11月実施の硬筆書写検定3級への合格を目指す 社会人になるための基礎知識を身につける			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、 100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	課題プリント配布、その他各自で資料準備			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	硬筆書写検定の基本と問題演習	掲示を書く①
	18	硬筆書写検定の基本と問題演習	掲示を書く②
	19	硬筆書写検定の基本と問題演習	掲示を書く③
	20	硬筆書写検定の基本と問題演習	漢字の部分の名称①
	21	硬筆書写検定の基本と問題演習	漢字の部分の名称②
	22	硬筆書写検定の基本と問題演習	漢字の部分の名称③
	23	硬筆書写検定の基本と問題演習	常用漢字の筆順①
	24	硬筆書写検定の基本と問題演習	常用漢字の筆順②
	25	硬筆書写検定の基本と問題演習	常用漢字の筆順③
	26	硬筆書写検定の基本と問題演習	草書を読む①
	27	硬筆書写検定の基本と問題演習	草書を読む②
	28	硬筆書写検定の基本と問題演習	草書を読む③
	29	硬筆書写検定の基本と問題演習	常用漢字の字体（間違い探し）
	30	硬筆書写検定の基本と問題演習	常用漢字の字体（間違い探し）
	31	硬筆書写検定の基本と問題演習	常用漢字の字体（間違い探し）
	32	硬筆書写検定の基本と問題演習	検定対策（振り返り）

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	ネイチャー実習Ⅰ		指導担当者名	鴻巣あすか
実務経験			実務経験：	
開講時期	後期	対象学科学年	ライフデザイン科1年制	
授業方法	講義：○	演習：	実習：◎	実技：
時間数	40時間	週時間数	20時間	
学習到達目標	土や砂、動植物など環境に対する直接的な自然体験を通し広い知識と技術を身につける			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材				
授業外学習の方法	授業内容の復習及び課題			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	手芸つくり	
	18	ハーバリウムつくり	
	19	キャンドルつくり	
	20	畑での見学・体験実習	収穫体験
	21	畑での見学・体験実習	収穫体験
	22	畑での見学・体験実習	収穫体験
	23	動物での見学・体験実習	動物に触れる体験
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
	31		
	32		

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	文書作成基礎		指導担当者名	添田　美華
実務経験				実務経験：
開講時期	前期	対象学科学年	ライフデザイン科1年制	
授業方法	講義：◎	演習：◎	実習：〇	実技：
時間数	89時間	週時間数	7時間	
学習到達目標	文字の入力から文書の新規作成、既存の文書の編集、印刷まで、Wordの基本的な機能と操作方法を身につける			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	よくわかる Microsoft Word 2021 基礎			
授業外学習の方法	授業内容の復習及び課題			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	Wordの基礎知識	Wordの概要、Wordを起動と終了、文書を開く・閉じる、Wordの画面構成
	2	文字の入力	IMEを設定する、文字を入力、文字の変換、文章の変換、単語の登録、読めない漢字の入力
	3	練習問題	練習問題　解答・解説　タイピングソフトの使い方
	4	文書の作成	ページレイアウトの設定、文章の入力、範囲選択、文字の編集、文字の書式設定、文書の保存、文書の印刷
	5	文書の作成	
	6	練習問題	解答・解説
	7	表の作成	表の作成、表の範囲選択、表のレイアウトの変更、表の書式設定、表のスタイルの適用、段落罫線の設定
	8		
	9	練習問題	解答・解説
	10	文書の編集	いろいろな書式の設定、段組みの設定、ページ番号の追加
	11	文書の編集	
	12	表現力をアップする機能	ワードアートの挿入、画像の挿入、図形の作成、ページ罫線の設定、テーマの適用
	13	表現力をアップする機能	
	14	練習問題	解答・解説
	15	便利な機能	検索・置換する、PDFファイルを操作する、練習問題
	16	期末試験	

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	文書作成検定対策Ⅰ		指導担当者名	添田　美華
実務経験			実務経験：	
開講時期	前期	対象学科学年	ライフデザイン科1年制	
授業方法	講義：◎	演習：◎	実習：	実技：
時間数	53時間	週時間数	10時間	
学習到達目標	MOSの検定試験に臨める基礎的な知識を身につける			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、 100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	課題プリント配布、その他各自で資料準備			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	11	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	12	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	13	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	14	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	15	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	16	模擬試験	模擬試験・解答・解説

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	表計算基礎		指導担当者名	添田　美華
実務経験				実務経験：
開講時期	通年	対象学科学年	ライフデザイン科1年制	
授業方法	講義：◎	演習：◎	実習：○	実技：
時間数	92時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	表の作成や編集、関数による計算処理、グラフの作成、並べ替えや抽出によるデータベース処理など基本的な機能と操作方法を身につける			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	よくわかる Microsoft Excel 2021 基礎			
授業外学習の方法	授業内容の復習及び課題			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	Excelの基礎知識	Excelの概要、Excelの起動と終了、Excelの画面構成
	2	データの入力	データの入力、データの編集、セル範囲選択、ブックの保存、オートフィルの利用
	3	練習問題	解答・解説
	4	表の作成	関数の入力、セルの書式設定、表示形式の設定、列の幅や行の高さの設定、行の削除・挿入、列を非表示・再表示
	5	表の作成	
	6	練習問題	解答・解説
	7	数式の入力	関数の入力方法を確認する、いろいろな関数を利用する、相対参照と絶対参照を使い分ける
	8	数式の入力	
	9	練習問題	解答・解説
	10	複数シートの操作	シート名の変更、グループの設定、シートの移動・コピー、シート間の集計、別シートのセルの参照
	11	複数シートの操作	
	12	練習問題	解答・解説
	13	表の印刷	表の印刷、改ページプレビューを利用する
	14	グラフの作成	グラフ機能の概要、円グラフの作成、縦棒グラフの作成、おすすめグラフの作成
	15	データベースの利用	データベース機能の概要、データの並べ替え、データの抽出、データベースを効率的に操作する
	16	期末試験	

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	表計算基礎		指導担当者名	添田　美華
実務経験				実務経験：
開講時期	通年	対象学科学年	ライフデザイン科1年制	
授業方法	講義：◎	演習：◎	実習：〇	実技：
時間数	92時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	表の作成や編集、関数による計算処理、グラフの作成、並べ替えや抽出によるデータベース処理など基本的な機能と操作方法を身につける			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	よくわかる Microsoft Excel 2021 基礎			
授業外学習の方法	授業内容の復習及び課題			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	17	練習問題	解答・解説
	18	練習問題	解答・解説
	19	練習問題	解答・解説
	20	練習問題	解答・解説
	21	練習問題	解答・解説
	22	期末試験	
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
	31		
	32		

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	表計算検定対策Ⅰ		指導担当者名	添田　美華
実務経験			実務経験：	
開講時期	前期	対象学科学年	ライフデザイン科1年制	
授業方法	講義：◎	演習：◎	実習：	実技：
時間数	32時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	MOSの検定試験に臨める基礎的な知識を身につける			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、 100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	課題プリント配布、その他各自で資料準備			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	11	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	12	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	13	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	14	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	15	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	16	模擬試験	模擬試験・解答・解説

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	プレゼンテーション基礎		指導担当者名	添田　美華
実務経験				実務経験：
開講時期	後期	対象学科学年	ライフデザイン科1年制	
授業方法	講義：〇	演習：〇	実習：〇	実技：
時間数	64時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	スライドの新規作成からプレゼン発表まで 基本的な機能と操作方法をを身につける			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	よくわかる Microsoft Power　point 2021 基礎			
授業外学習の方法	授業内容の復習及び課題			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	17	PowerPointの基礎知識	PowerPointの概要、PowerPointを起動する・終了する
	18		PowerPointを起動する、プレゼンテーションを開く・閉じる
	19	基本的なプレゼンテーションの作成	新しいプレゼンテーションを作成する、プレースホルダーを操作する
	20		スライドを挿入する、文字に書式を設定する、プレゼンテーション構成を変更する
	21	表の作成	表を作成する、行列を操作する、表に書式を設定する
	22		練習問題
	23	グラフの作成	グラフを作成する、グラフのレイアウトを変更する
	24		グラフに書式を設定する、グラフのもとになるデータを修正する、練習問題
	25	図形やSmartArtグラフィックの作成	図形を作成する、図形に書式を設定する、SmartArtグラフィックを作成する
	26		SmartArtグラフィックに書式を設定する、テキストをSmartArtグラフィックに変換
	27	画像やワードアートの挿入	画像を挿入する、ワードアートを挿入する
	28		練習問題
	29	特殊効果の設定	アニメーションを設定する、画面切り替え効果を設定する
	30	プレゼンテーションをサポートする機能	発表者ツールを使用する、リハーサルを実行する、目的別スライドショーの作成
	31	総合問題	解答・解説
	32	期末試験	総合演習・試験

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	プレゼンテーション検定対策Ⅰ		指導担当者名	添田　美華
実務経験				実務経験：
開講時期	後期	対象学科学年	ライフデザイン科1年制	
授業方法	講義：○	演習：◎	実習：○	実技：
時間数	32時間	週時間数	8時間	
学習到達目標	スライドの新規作成からプレゼン発表まで 基本的な機能と操作方法をを身につける			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	よくわかるマスター　Microsoft Office Specialist　PowerPoint 365&2021対策テキスト&問題集			
授業外学習の方法	授業内容の復習及び課題			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	29	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	30	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	31	模擬試験	模擬試験・解答・解説
	32	模擬試験	模擬試験・解答・解説

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	ビジネスマナー・秘書学		指導担当者名	鈴木　修子
実務経験	各種研修サービス事業の経営者として、接遇やマナーに関するコンサルに従事		実務経験：	有
開講時期	後期	対象学科学年	ライフデザイン科１年制	
授業方法	講義：○	演習：○	実習：	実技：
時間数	53時間	週時間数	３時間（28タームより4時間）	
学習到達目標	・社会人として必要な一般知識やビジネスマナーを習得し、適切な言動や立ち居振る舞いができる。 ・授業で習得した知識や実践能力を基に、「秘書検定3級」の合格を目指す。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。 期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。 A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	秘書検定3級クリアテスト			
授業外学習の方法	確認テスト、模擬試験、過去問題を課題として行う。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	17	必要とされる資質、仕事を行う心構え	秘書としての心構え・模擬問題
	18	職務知識、秘書的な仕事の役割と機能	秘書の業務・模擬問題
	19	一般知識、社会常識と企業経営	社会人として求められること・企業に関する知識・模擬問題
	20	一般知識、社会常識と企業経営	報告・連絡・相談のポイント・模擬問題
	21	マナー接遇　人間関係と話し方	挨拶の基本・敬語と接遇用語・模擬問題
	22	マナー接遇　電話応対、来客応対	ビジネス電話の応対・来客応対のマナー・模擬問題
	23	マナー接遇　慶弔のマナー、贈答のマナー	慶事のマナー・弔事のマナー・模擬問題
	24	技能　会議、文書の取り扱い	会議に関する知識・社外文書・社内文書・模擬問題
	25	技能　郵便の知識	文書の受信、発信業務・郵便の知識・模擬問題
	26		
	27		
	28	技能　ファイリングとオフィス管理	ファイリングの目的と種類・オフィス機器・模擬問題
	29	総合練習	模擬問題・過去問題・模擬試験
	30	総合練習	模擬問題・過去問題・模擬試験
	31	総合練習　期末テスト	模擬問題・過去問題・模擬試験
	32	総合練習	模擬問題・過去問題・模擬試験

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	英会話	指導担当者名	佐藤　祐汰
実務経験	学習塾で4年間英語講師として担当	実務経験：	有

開講時期	後期	対象学科学年	ライフデザイン科1年制

授業方法	講義：○	演習：	実習：○	実技：

時間数	32時間	週時間数	2時間

学習到達目標	・英文法基礎を理解し運用できる。 ・ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、近所、仕事など。直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応じることができる。
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。
使用教材	中学英語をもう一度ひとつひとつわかりやすく。（Gakken） その他教員準備プリント
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	17	オリエンテーション	自己紹介・授業説明
	18	be動詞、一般動詞、品詞、否定文	文法確認、使用練習、自己表現演習
	19	疑問文、疑問詞	文法確認、使用練習、自己表現演習
	20	複数形、命令文、代名詞	文法確認、使用練習、自己表現演習
	21	時制①	文法確認、使用練習、自己表現演習
	22	時制②	文法確認、使用練習、自己表現演習
	23	助動詞・have to、不定詞・動名詞	文法確認、使用練習、自己表現演習
	24	接続詞、いろいろな文型	文法確認、使用練習、自己表現演習
	25	比較、受け身	文法確認、使用練習、自己表現演習
	26	現在完了、不定詞	文法確認、使用練習、自己表現演習
	27	後置修飾、関係代名詞	文法確認、使用練習、自己表現演習
	28	関節疑問・仮定法	文法確認、使用練習、自己表現演習
	29	運用練習①	読解・自己表現演習
	30	運用練習②	読解・自己表現演習
	31	期末試験	
	32	総まとめ	復習

履修上の留意点

出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	国際理解		指導担当者名	鴻巣あすか
実務経験			実務経験：	
開講時期	前期	対象学科学年	ライフデザイン科1年制	
授業方法	講義：○	演習：○	実習：○	実技：
時間数	48時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	グローバルな視点を身につける 互いの文化や考え方を知り双方の「違い」を理解し相手を尊重することで相互理解の態度を深める			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	国際理解のために　放送大学教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習及び課題			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	地球規模的課題	平和について調べまとめる
	2		人権について調べまとめる
	3		環境について調べまとめる
	4	自国を知るする	日本における今日的課題の探求
	5		日本における今日的課題の探求
	6		日本における今日的課題の探求
	7	他国を知る	世界についての今日的課題の探求
	8		世界についての今日的課題の探求
	9		世界についての今日的課題の探求
	10		世界についての今日的課題の探求
	11		世界についての今日的課題の探求
	12		世界についての今日的課題の探求
	13		世界についての今日的課題の探求（留学生との交流）
	14		世界についての今日的課題の探求（留学生との交流）
	15	発表	自国他国の違いについて発表準備
	16	発表	自国他国の違いについて発表

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	カラーコーディネート		指導担当者名	小池　久子
実務経験	各企業の色彩アドバイザー、各種団体のカラーに関する講演・講座等に従事している		実務経験：	有
開講時期	通年	対象学科学年	ライフデザイン科1年制	
授業方法	講義：◎	演習：○	実習：○	実技：
時間数	39時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	色彩の基礎的な理論や体系的な知識を身に付け、色彩検定3級を受験し、その資格を取得することを目標とする			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	色彩検定3級公式テキスト、新配色カード199a			
授業外学習の方法	授業内容の復習、課題が出された場合は自宅にて実施			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15	色のはたらき、眼のしくみ	テキストP6～21、課題プリント
	16	照明と色の見え、混色	テキストP22～30、課題プリント、ミニテスト

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	カラーコーディネート		指導担当者名	小池　久子
実務経験	各企業の色彩アドバイザー、各種団体のカラーに関する講演・講座等に従事している		実務経験：	有
開講時期	通年	対象学科学年	ライフデザイン科1年制	
授業方法	講義：◎	演習：○	実習：○	実技：
時間数	39時間	週時間数	3時間	
学習到達目標	色彩の基礎的な理論や体系的な知識を身に付け、色彩検定3級を受験し、その資格を取得することを目標とする			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	色彩検定3級公式テキスト、新配色カード199a			
授業外学習の方法	授業内容の復習、課題が出された場合は自宅にて実施			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	17	色の分類と三属性、PCCS	テキストP31～48、課題プリント
	18	色の心理効果	テキストP49～57、課題プリント、ミニテスト
	19	色の視覚効果	テキストP58～68、課題プリント、ミニテスト
	20	色相を手がかりにした配色	テキストP69～83、課題プリント、ミニテスト
	21	トーンまた色相とトーンを手がかりにした配色	テキストP84～91、課題プリント
	22	配色の基本的な技法	テキストP92～107、課題プリント
	23	ファッション色彩	テキストP109～115、課題プリント
	24	インテリア色彩	テキストP117～125、課題プリント
	25	検定試験対策	課題プリント
	26	検定試験対策	課題プリント
	27	検定試験対策	課題プリント
	28	検定試験対策	課題プリント
	29	検定試験対策	課題プリント
	30	検定試験対策	課題プリント
	31	期末試験・検定試験答合わせ及び解説	課題プリント
	32	パーソナルカラー・色のユニバーサルデザイン	パーソナルカラー診断・色覚異常による色の見え方体験

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	クリエイティブ実習基礎		指導担当者名	大澤　秋津
実務経験	職業訓練施設（ポリテクセンター福島）生産情報システム科修了		実務経験：	有
開講時期	後期	対象学科学年	ライフデザイン科1年制	
授業方法	講義：○	演習：	実習：◎	実技：
時間数	64時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	・独自のビジネスモデルを企画し、市場のニーズの分析とマーケティング戦略に基づいた企業の準備ができる。 ・Googleサイトを使用し、上記の起業計画に連動した独自のホームページ制作ができる。 ・配色や構図、フォントや視覚効果、アクセシビリティなど、総合的なウェブデザインに基づいたホームページ制作ができる。 ・画像・動画、Googleマップ、YouTube、Googleマップ、Googleフォームなど、他のサービスとホームページの連携ができる。 ・各種SNSとホームページを連携させ、市場と顧客層を開拓・拡大するための広報戦略が展開できる。 ・ステークホルダーに対し自身が制作したホームページやプロダクトのプレゼンテーションができる。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	Googleサイトの使い方：ホームページ作成			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	17	オリエンテーション	SNS時代におけるホームページの役割について議論する／グループワーク
	18	一般的なWebサイトとGoogleサイトの違い	html,CSS,JavaScriptの基本と、Googleサイトの機能的制限を理解する／実習
	19	Googleサイトの設定とガイダンス	アカウント制作とGoogleドライブの基本操作、フォルダ管理を学ぶ／実習
	20	ホームページの階層の理解	ウェブデザインにおける情報の構造及び階層に企画を反映させる／実習
	21	デザインとテーマ、フォントとアクセシビリティ	企画に基づいたデザインとユーザーファーストの両立を図る／実習
	22	画像と動画の挿入	画像・動画の添付・加工と、注意すべき著作権について理解する／実習
	23	Googleマップの挿入	地図およびアクセス方法など補足情報の編集を学ぶ／実習
	24	各種リンクの挿入	ホームページ内外の効果的なリンクの貼り方を学ぶ／実習
	25	各種SNSとの連携	各種SNSとの連携方法と、デジタルマーケティングを理解する／実習
	26	Googleフォームとの連携	Googleフォームの編集方法とHPとの連携方法を学ぶ／実習
	27	アンケート、FAQの制作	Googleフォームを用いる際の質問項目の設定を学ぶ／実習
	28	イベント参加フォームの制作	参加者の視点に立った入力フォームの仕様について学ぶ／実習
	29	プレゼンテーションのトレーニング	製作したHPのプレゼンと質疑応答を行い、各自にフィードバックを返す
	30	プレゼンテーションのトレーニング	制作したHPのプレゼンと質疑応答を行い、各自にフィードバックを返す
	31	プレゼンテーション	本番に向けた発声、姿勢、ゼスチャーなどをレクチャーする／個別指導
	32	プレゼンテーション	本番に向けた発声、姿勢、ゼスチャーなどをレクチャーする／個別指導

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。

授業計画（シラバス）

科目名	心理学		指導担当者名	鴻巣　あすか
実務経験			実務経験：	
開講時期	前期	対象学科学年	ライフデザイン科1年制	
授業方法	講義：◎	演習：◎	実習：○	実技：
時間数	32時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	心理学の基礎学び特に色にまつわる、心理的・生理的・感情的・文化的な効果や影響を理解する。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80％以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A（80点～100点）（優）、B（70点～79点）（良）、C（60点～69点）（可）、D（0点～59点）（不可）、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材				
授業外学習の方法	授業内容の復習及び課題			

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	心理学概論	心理理学とは
	2		パーソナルスペース
	3	認知の発達	ピアジェの発達理論・心の理論・学習理論
	4	認知の発達	ピアジェの発達理論・心の理論・学習理論
	5	社会情動的発達①	自己の発達 第一次反抗期
	6		情動の発達 情動調整の発達
	7	身体機能と運動の発達	身体的機能の発達 運動機能の発達
	8	身体機能と運動の発達	身体的機能の発達 運動機能の発達
	9	様々な心理学	カラーセラピー
	10	様々な心理学	カラーセラピー
	11	様々な心理学	子どもの心理ケア
	12	様々な心理学	子どもの心理ケア
	13	様々な心理学	性格診断テスト
	14	様々な心理学	性格診断テスト
	15	様々な心理学	コラージュ・試験対策
	16	期末試験	

履修上の留意点

出席率が80％に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。